

■あらすじ

それは七夕の夜の出来事。

かつてのトップアイドル鷺宮蘭は車中でガス自殺を計画する。

しかし見知らぬ男女が突如現れると窓ガラスを割り侵入すると車を急発進。気が付けば彼女は奇妙な逃避行に巻き込まれることになる。

男女が逃げる理由。それはこの地域に残る土着の風習【冥婚】に起因していた。

厄介ごとに巻き込まれ困惑する蘭。しかしこの出逢いは決して偶然などではなかった。夜明けとともに彼女はそう確信するのであった。

■登場人物

鷺宮蘭（さぎみやらん）29歳（アイドル歌手）

織川好子（おりかわよしこ）22歳（地主の娘）

彦田幹夫（ひこたみきお）22歳（好子の旧友）

SE スマホを操作する音。

蘭M 「最後のブログもコメントはゼロ。だよね、今の私なんてこんなもの。知ってる」

SE ガムテープを貼る音が続く。

SE 車のエンジンをかける音。

蘭M 「明日の新聞少しくらい載るかな……確かめようもないけど。（スマホを操作し）ベガさん……いつもコメント残してくれたのに、体でも壊したのかな。それとも……あ、これだ、なんか少しくラクラクして来たかも。これで私本当に……本当に……」

SE 突然窓ガラスの割れる音。続けざ

まにドアのカギを開けられて好子

と幹夫が車に乗り込んでくる音。

蘭「ひゃっ！？何！？」

幹夫「岩で割ったの？乱暴すぎるよ！」

好子「煩い！幹夫はさっさとホース抜く！もう、邪魔だから助手席に移って！行くよ！」
蘭「いや、だ、誰ですあなたたち！わっ！」

SE 車の急発進する音。

SE 幹線道路を車が進む音。

幹夫「必ず弁償します！本当に本当にすみません、これには事情があつてですね」

蘭「何ですか事情つて！サッパリ意味が……」

好子「逃げてんの」

蘭「まさか……泥棒!？」

幹夫「違います違います。その、僕は彦田幹夫と申します。彼女は……織川好子さん？」

好子「何で訊くワケ？見りや分かるでしょ。にしたつて人家的敷地で自殺とか超ありえな

いんだけど」

蘭「え?……敷地?」

好子「しかも自殺しようつてのにガソリン満タンにしとかないとか超意味不明」

蘭「え?それは……」

幹夫「スタンド行く?」

好子「小さい町だよ、居場所がバレるでしょ。とりあえず行けるところまで行く!」

SE 車が速度を上げる音

SE カモメの鳴き声。車の停車音。

蘭「灯台?」

好子「観光客捕まえてヒッチハイクと思ったけど……全然だわ。ちょっと財布貸して」

幹夫「うん……あっ!!」

SE 好子が財布を奪い走り去る音。

蘭「……あの、さっき言つてた事情つて……」

幹夫「……冥婚つてご存知ですか?」

蘭「めいこん?」

幹夫「土着の風習つていうか言い伝えつていうか……未婚で亡くなった女性と生きた男性

との結婚のことです。この辺にはまだそういうのが残つて……」

蘭「はい?」

幹夫「色々あつて僕がその相手選ばれてたんです。で、今日がその式だった。でもよつち

ゃんが急に現れて僕を連れて……」

蘭「逃げてる?」

幹夫「まあそんなところです。あの、一つ確認してもいいですか?貴方にもよつ……」

SE 好子が小走りにやってくる音。

好子「幹夫はいつもみたいにアイスココアでいいんですよ。で、アンタにはおしるこ」
幹夫「なんで夏場にそんなもの！？スミマセン、僕のと交換……」

蘭「いいえ、好きですから、缶のおしるこ」

好子「さて……こんなド田舎で夜中に歩いてちゃ目立つし……今晚は車中泊決定かな」

蘭「は？そんな勝手な、ちよっと!!」

SE 幹夫のいびきが聴こえる。

SE 好子が幹夫のスマホをいじる音。

好子「おやすみのココアを飲んだらグッスリ。本当子供の頃から変わらないんだから」

蘭「そのスマホ彦田さんのじゃ……」

好子「いいのいいの」

蘭「あの……さっき聞いたんですけど」

好子「ったくおしゃべりなんだから」

蘭「あなたが彦田さんと結婚すればいいんじゃないですか？だって既婚者なら……」

好子「ムーリ。それは絶対無理」

蘭「何で？生理的に合わないとか？」

好子「そんなのを助けると思う？」

蘭「じゃあ……」

好子「逆にさ、サギちゃんが幹夫と付き合ってくれたら私的に超助かるんだけど」

蘭「え？」

好子「好物の缶おしるこあげたんだし、どう？」

蘭「……知ってるんですか、私の事」

好子「超知ってる。鷺宮蘭、サギちゃん。子供の頃からずっとファンだもの。ってか今日の

ブログ何？『七夕の夜、みんなに幸せが訪れるおまじないをプレゼントします』とか……

アイドルとはいえアラサーとしてどうなの？」

蘭「はい！？まさか今私のブログ見て……」

好子「でも私はそんなサギちゃん超好きなんだよね。私こんなんだし、ないものねだり？」

蘭「けど今の私なんて……」

好子「まさかサギちゃんにまで会えるとは思わなかった。ありがとう」

蘭「え？」

好子「じゃあね……おやすみなさい」

SE 辺りに雨の降り始める音。やがて雨脚は強くなる。

蘭「いつの間に寝て……あれ？織川さん!？」

SE 蘭が車のドアを開け飛び出す音。

幹夫「あ、起きられたんですね」

蘭「あの、織川さんは……」

幹夫「多分、帰ったんだと思います」

蘭「どこに？」

幹夫「ビックリですよ。僕の冥婚の相手……よっちゃんだったんですよ」

蘭「え？」

幹夫「先月交通事故起こして亡くなって。なのにあの運転、全然懲りてない。ははは」

蘭「じゃあ……あの織川さんは……」

幹夫「自分の結婚式を自分でぶち壊しにするとか……本当よっちゃんらしい」

蘭「嘘……でしょ」

幹夫「あ、スママセン傘お返しします。そうだ、僕のスマホ見ませんでしたか？」

蘭「だったら運転席に……あ!?(スマホを操作して)これ……やっぱり」

好子M「最近コメント出来てなくてごめんなさい。ブログいつも楽しみにしてました。おま

じないありがとう。きつとそのお蔭で私は幸せな七夕を迎えることが出来ました。もう会えないと思ってた人と憧れの人にまで会えて、さすがサギちゃん。ううん、七夕だからき

つとカササギかな」

蘭「……ベガさん」

幹夫「あ、あった！有難うございます！あれ？書きかけのメール？」

蘭「あの、私ヒッチハイクして来ますね！」

幹夫「え？」

蘭「え？じゃないですよ、だってほら……彦星を運ぶのはカササギの務めですから！」

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba1227@hotmail.com) までメール一報頂きますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はありません。

- ・連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間内で集まっでの練習でのご利用。
- ・ Skype などを紹介しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

gumbal227@hotmail.com (岩本)